

なぜリサイクル? もっとリサイクル!

改めてリサイクルをする意義について
考えてみましょう。



Q1 リサイクルする必要ってあるの?

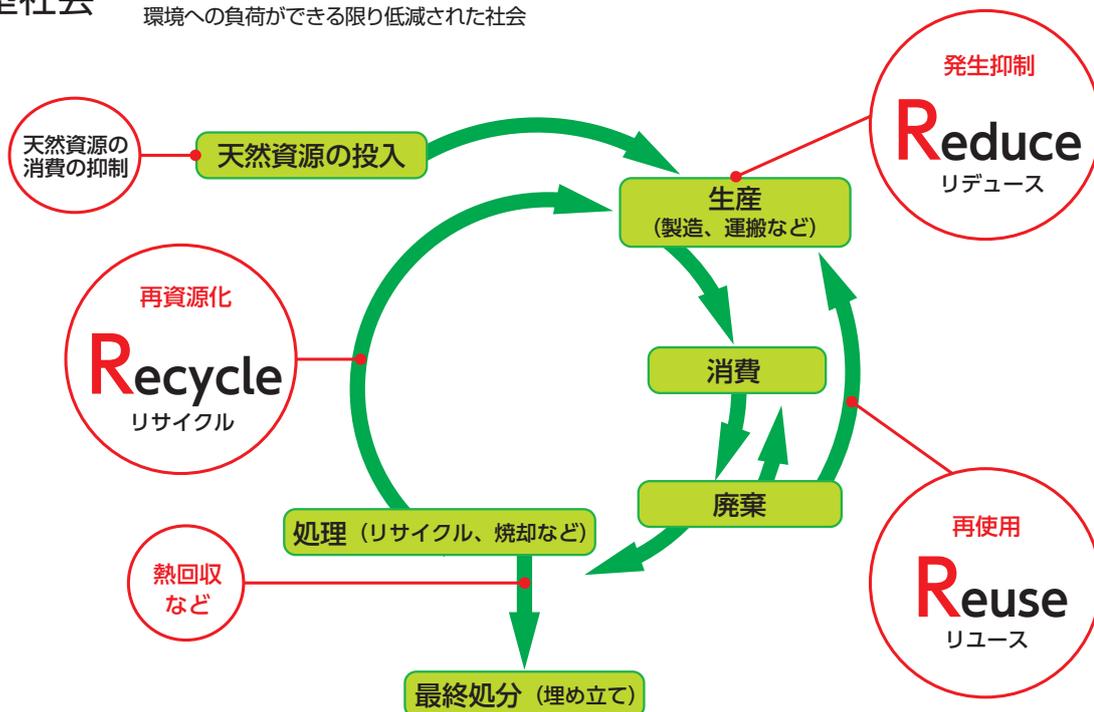
A1 資源を有効に使い、ごみの発生を抑えて、環境への負荷を少なくするために
必要なのです。

皆さんの家庭から排出されるごみ(一般廃棄物)の総排出量は、年間4,289万トンにのぼり、東京ドーム約115杯分に相当します。1人1日当たり920グラムのごみを排出しています(環境省調べ)。さらに産業廃棄物も大量に排出されており、最終処理場が足りなくなる恐れがあります。一方、豊かな暮らしを支えている資源の枯渇も将来的に懸念されています。

私たちが排出しているごみは、もともと資源からつくられています。使用済みの製品をごみとして捨ててしまうのではなく、再び原材料として有効に使えば、新たな資源の採取やごみの発生を抑えることができます。環境への負荷をできる限り低減した「循環型社会」を築くため、リサイクル(Recycle:再資源化)すること、さらに進んでリデュース(Reduce:発生抑制)すること、リユース(Reuse:再使用)することの3Rを推進することが大切になります。

循環型社会

適正な3Rを推進し、天然資源の消費を抑制し、
環境への負荷ができる限り低減された社会



Q2

分別した資源物はどのようにリサイクルされているの？

A2

再資源化される状態で大きく分けてマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルの3つの方法で資源循環が行われています。さらに再資源化される性質のちがいにより、クローズドループリサイクル、カスケードリサイクルがあります。

マテリアルリサイクル

素材としての再利用で、単一素材化が基本的な条件となります。分別や異物除去の徹底が必須で、再資源化や再商品化を促進するため、種類の判別を容易にするリサイクルマークが製品や容器などに表示されています。

なかでも、鉄は磁石にくっつくため分別が簡単で、材料の持つ本来の性質を保ったまま同じ製品の材料として無限にリサイクルできます。このことを「クローズドループリサイクル」といいます。

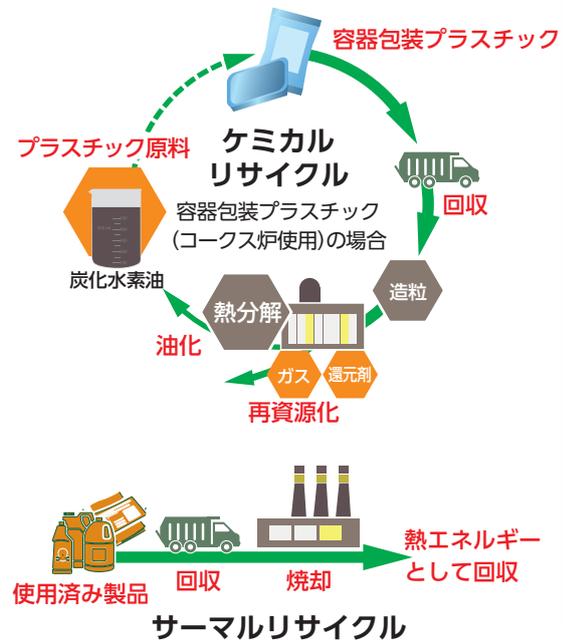
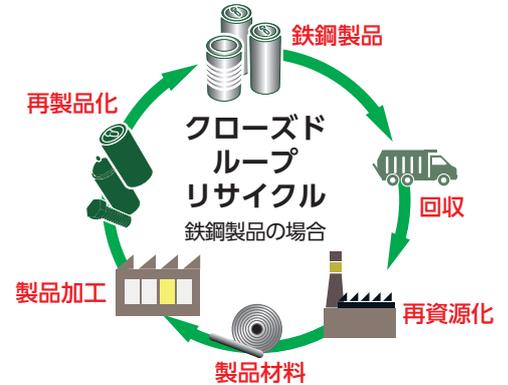
一方、性質の劣化や変化を伴うため、同じ製品にリサイクルされない場合は、「カスケードリサイクル」と呼ばれています。カスケードとは階段状に落下する滝という意味です。有限のリサイクルで、最終的には廃棄されます。

ケミカルリサイクル

使用済みの資源をそのままではなく、化学反応により組成変換したあとに再生利用を図ることをいいます。代表例の1つに、製鉄所で行われている廃プラスチックのコークス炉化学原料化があります

サーマルリサイクル

ごみを焼却したときに発生する熱によって、蒸気を回収したり、発電することをいいます。焼却は通常廃棄物の容積を減らす目的で行われますが、その際の熱を回収すれば、リサイクルになります。ただし、燃え残った燃焼灰などの廃棄物処分が必要となります。



Q3

自分ひとりだけ頑張っても社会は変わらないんじゃない？

A3

一人ひとりの活動が家族や友人、企業、社会にまで影響を与えることもあります。ポイ捨てをしない、清掃ボランティアに参加する、しっかり分別して回収するなど、身近なところから行動していきましょう。

家庭で不要になったものを分別して排出することで、それは資源となり新たな製品に生まれ変わります。製品づくりに再生資源が使用されることで、資源の無駄遣いが防げます。街や川、海などを汚すポイ捨てや放置は環境破壊につながるのみならず資源リサイクルの面も含めて二重に問題があります。「分ければ資源、混ぜればごみ」という認識を持って、循環型社会をつくっていきましょう。



製鉄所員による清掃ボランティア活動